

担任「F子に相談されてどんな気持ちだった」
Y子「うん、頼られているみたい」
担任「うん、頼られるのねえ、そうね」
Y子「ええ、うれしかった」
担任「そう、人に頼られるってうれしいんだねえ。
よかったね」
Y子「頼られるって気持ちがいい。えらくなっ
たみたい、そう」
しばらくたって、U子からY子に助言を受けて
助かった話を聞く。

担任「Y子ちゃん、総会の時U子ちゃんにいろい
ろ教えてやったんだってね」
Y子「ええ、そんな、ほんのちょっとだけ」
担任「U子ちゃんから聞かされて先生もわかった
んだけど、U子ちゃんありがたがっていたよ。
人を助けてあげるってなかなかできないことな
んだけど、よくやってくれたね。先生もうれし
い」

2、3日後、母親から

母「全然わかりませんでした。そんなこと一言も
いいませんから。自分なりにがんばったんでし
ょうね。前に委員長になれなかった時は、がっ
かりしていたみたいだけど、その時は1学期の
経験を生かしてがんばったら、としか話してな
かったんですけどね。Y子が人の面どうをみて
くれるんですか、たいしたもんですね。お父さ
んも喜んでました。Y子のことをほめていまし
た」

● 10月

休み時間に、校庭で遊んでいた時、たまたま妹
(S)が友だちに囲まれて、いやなことを言われ
ていたことについて

Y子「さっき、校庭で遊んでいたら、Sちゃんを
囲んで、みんなが、〃おまえの顔にはイボがあ
る。わぁきたねえ。気持ち悪い。ワーイ。イボ、
イボ、ってはやしたてていたの。わたしは、〃そ
んなこと言わないで、かわいそうでしょう。あ
んたたちだって言われてみろ、いやなんだから。
お願いだから言わないで、と言ってやったん
だけそれなのに、みんなは何回も言ったんです

よ。わたしSちゃんがかわいそうで、かわいそ
うで、わたしまで泣いちゃった。わたし本当に
泣いちゃったの」と涙を浮かべながら話してき
た。

担任「そう、泣いちゃったの。つらかったね。で
も、Sちゃんのことかばってくれたんだね。S
ちゃんきっと喜んでいるよ。いいお姉ちゃんを
もって良かったなぁと思っているよ。Y子ちゃ
んは妹思いのやさしいお姉さんだね」
その日の夕方、

母「Y子からも聞きました。家に帰ってきてから
は、冷静になったらしく、みんなのことは悪く
は言いませんでしたけど、くやしかったらしい
ですね。でも、よくSのことをかばってくれた
と思います。わたしもY子の成長にうれしくな
りました。Y子も先生にほめられたのが、とて
もうれしかったと言ってました。最初は泣いて
たんだけど、先生に話しているうちにだんだん
元気になってきたんだよ、とも言ってました」
父「きょうのことは、うれしかったです。すごく
ほめてやりました。やさしい気持ちがでてきた
んですね。Sもうれしそうでした。急に仲がよ
くなったみたいです。このごろは、できるだけ
Y子にことばをかけています。ありがとうございます
でした」父もようやく話してくるようになった。

● 11月

仲間はずれについてロール・プレイングをする。
担任がN子で、Y子がT子になる。

N子「あんたは、Oさんのところに行く
んだから。あん時は、わたしとOさんで遊ん
でいたんだから、あんたなんかなんにも来なく
たっていいんだよ」

T子「わたしは、なんにもそんなつもりじゃー」

N子「なんにも、なんだよ。いってみな」

T子「わたしは、遊びたかっただけよ」

N子「あんたなんか、他の人と遊べばいいんだよ。
他の人と。いばってんだよこのごろ」

T子「別にいばってるなんて」

N子「いばってんだよ。これからOさんとなん